

令和元年7月17日 ダイバーシティ就労プロジェクト企画委員会

障害者＋困難者の就労支援の取り組みについて



ぷろぼの食堂

お願い

私は発声障害者なので、「ハ行」が発音できません。

福祉 FUKUSHI → UKUSHI

花 HANA → ANA

奈良 社会福祉法人ぷろぼの
理事長 山内 民興

頂いたテーマ

困難者に向けた取り組みの紹介

構成

1. 障害者福祉の就労支援事業
2. 福祉の責任あるしごと
3. 困難者への取り組み
4. これからの福祉

*「障害者」は、医師の診断をもとに自己申請して手帳を取得したもの、または診断をもとに福祉サービスを利用したものも含む

*「困難者」は、相当の障害があっても申請していない者や社会的要件、それ以外の理由で困難さを持っている者

歴史遺産の町 大阪・京都の郊外地

歴史遺産が産業資源

- ・受け入れる企業が少ない
(従業員50人以上の企業は645社)
- ・大半がパート募集で条件が悪い
- ・作業系が多く業種が偏っている
(情報通信系はほぼない)
- ・奈良県の最低賃金 811円
- ・災害もなく子育てにはいいところ

ぷろぼの役割

地域の福祉ネットワークを構築する

福祉理解の促進

障害者等の就労支援

企業や専門家と連携

関連するシステムの開発



CLT工法の木造5階建て福祉ビル

人にやさしい「福祉の職場」
をつくる

地域の人たちと交流



大宮本部

- | | |
|----|------------|
| 5F | セミナールーム |
| 4F | 就労移行 |
| 3F | 自立支援・放課後デイ |
| 2F | 就労継続A型 |
| 1F | まかない食堂・居酒屋 |

職員の採用条件で留意していること

- 福祉を学ぶ能力があること
- 就労支援を学ぶ能力があること
- ITを学ぶ能力があること
- 一般教養を高める気持ちがあること

職員も共に育つ・・・の思いで日々の業務に取り組む姿勢が大切です

理念

誰もが自立した生活ができる地域社会づくりを目指します。

- ・ 古都奈良の地を大切にします。
- ・ 人にやさしい福祉ごころを育みます。
- ・ 夢と勇気を持って日々努力します。

夢と目標

下学して上達す（かがくして、じょうたつす）

身近なことを根気よく学ぶことで、もっと大切なことが分かるようになる。

ぷろぼの probono publico

ラテン語で「公共善、よき社会の実現」の意味

- 2006年 「NPO法人地域活動支援センターぷろぼの」を設立
奈良で地域活動支援センターⅢ型事業を開始
- 2007年 就労移行事業及びB型事業を開始
- 2009年 就労継続A型事業を開始
就労支援プログラム&データベースを開発
- 2013年 社会福祉法人格を取得
- 2014年 放課後児童デイ事業を開始
キャリア教育アワードで経済産業大臣賞を受賞
- 2016年 福祉型事業協同組合「あたつく組合」
(あたらしい・はたらくをつくる・福祉型事業協同組合)を設立
CLT工法による木造5階建て「ぷろぼの福祉ビル」を建設
デザイン振興会のDesign @ Communities Award 2017大賞
- 2017年 大学生を支援する仕組みづくりに取り組む
ソフトバンク社と連携してPepper10台を開発運用
第18回小倉昌男賞を受賞
- 2018年 三菱財団社会福祉研究を受託、AI就労支援システムを開発
京都、三重に事業所を開設
- 2019年 テレワークの就労支援を開始

人は社会的な生き物なので、**はたらくこと**で成長し、新たに社会の役割を得る。

**私たちににとって はたらくこと は、
人らしく日々を生きるための大切な行いなのです。**

▽基本方針

「福祉を科学する」細やかな日々の福祉支援に取り組む

科学するとは、“見ること×知ること×伝えること”を体系的に実施する

▽福祉方針

魅力ある福祉事業に取り組む

- ・ 職員は利用者の目線で福祉支援をする
- ・ 職員は利用者対応に多くの時間を費やす
- ・ 職員は法人の総合力を活用した支援をする
- ・ 職員は利用者の働く可能性を広げる支援をする
- ・ 職員はリアルな報連相を密にする

動画 3分

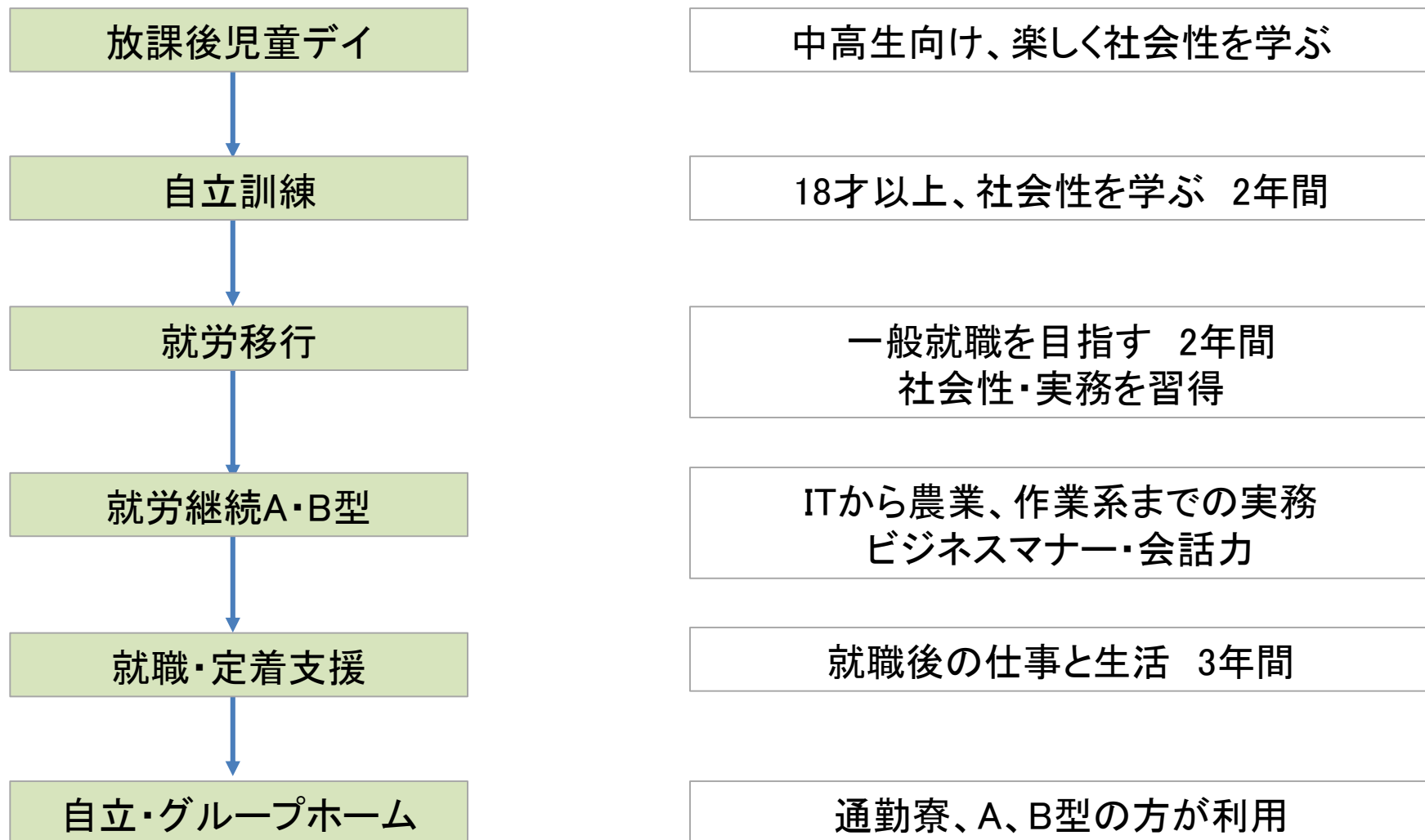
▽テーマ

「育ちあう福祉」

利用者+職員+地域が“お互い様の気持ち”で共に育ちあう

多様な福祉サービスを準備

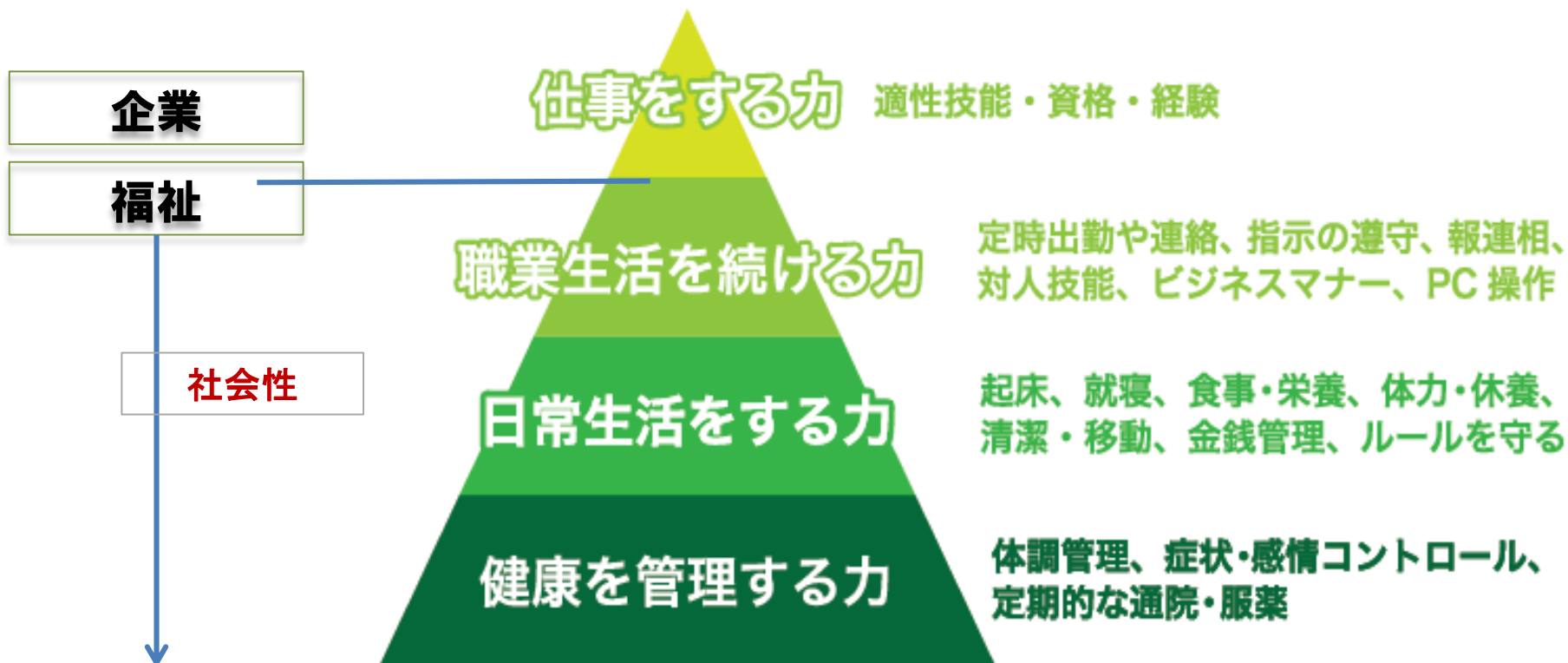
適切な福祉訓練がながく働くために有効がある



ぷろぼの 就労支援プログラム

社会人スキル(就職準備性)

バランスよく身につけていく必要があります。



社会性の育成は福祉が担当

「社会性」の11項目

評価項目を4段階で評価
成果を数値とメモに残す



個別支援計画を
自動作成する

AIによる統計処理で
成果を数値化する

中分類	小分類
決まりを守る	規則の順守
	時間を守る
	身だしなみ
礼儀	挨拶
	お礼・謝罪
報連相	報告
	連絡
	相談
指示理解	記録と整理
	指示理解と遂行
	質問
出欠状況	定時出勤
	遅刻・欠席等の連絡

Web制作

よもぎ
栽培

農地
維持

システム
開発

草刈り

町の
花壇維持

中古PC
メンテ

地域の要望からしごとが生まれる

ロボット
制御

地酒
居酒屋

子ども
食堂

デザイン
制作

データ
入力

PC海外
寄贈

手仕事

養護施設の就労支援

養護施設利用中の方の就労訓練の取り組み

生活困窮者の就労支援

県社協と連携した困難者の就労訓練の取り組み

困難大学生の支援

障害学生の学業と就労準備の取り組み

平成29年4月から1年間、奈良県内の児童養護施設等の在所者・職員を対象に施設利用者の退所後の準備について、調査を開始する。

○活動内容

- ・相談支援スペースを整備
- ・児童養護施設、里親会、ファミリーホーム協議会、企業へ資料配布
- ・児童養護施設と連携を開始
里親専門員が配置され連携が広がる。
- ・セミナー開催
ビジネスマナーセミナー(29年年7月15日開催)
思春期の性に関するセミナー(8月19日開催)
- ・パソコン教室開催
(8月18日・22日・25日・29日 計4回) 中学生3人が参加
(30年8年1月13日・27日・2月10日・24日・3月10日・17日 計6回)
里親制度の方が参加、計6回実施
- ・プログラミング教室事業
ファミリーホーム(4歳～15歳)5人が参加
Pepper をプログラムで制御し動作や会話機能を設定する

・職場見学会

里親会、ファミリーホーム協議会の中学生3人がぷろぼのを見学

課題：

・情報機器の提供

パソコンが各自に配布できなく、また使用上の管理ができないので、プログラマー志望であっても支援ができない。

・金銭管理

卒業後の進学及び就労のための継続的な資金援助がなく、また利用中も金銭管理の指導ができていない。

- 奈良県社会福祉協議会の奈良中和・吉野自立生活サポートセンター事業「認定就労訓練事業所」に登録し困難者の就労支援を受託する。

<http://nara-shakyo.jp/publics/index/141/>

県社協が「生活困難者」と認定した方を受け入れる

平成29年 1名をB型事業所で実習し、一般就職する

平成30年 1名をB型事業所で実習し、一般就職する

事例：20代男性、プログラマー・SEに興味があり、就労体験を開始。順次、ピッキング等の軽作業も体験し、自信をつけられ徐々にコミュニケーション力や積極性の向上が見られた。半年後にIT系企業へ就職。

- 「奈良県広域就労準備支援事業」の協力事業所に登録して、就労準備セミナーと体験実習を実施する。

平成30年11月 講座3日間と体験4日間 参加人数：6名

内訳：大和郡山市2名、橿原市2名、高取町1名、河合町1名

性別 女性2名・男性4名

年齢 20代2名、30代1名、40代1名、50代2名

経過 2名就職、4名就職活動中

○地域ネットワーク会議を開催

平成29年3月から8回開催、障害者や若者、ひきこもり、生活困窮者の就労の情報交換や協議し、「働きたいを支える地域ネットワーク会議」に発展する

主に県社協が支援事業を実施したことで、福祉の支援準備ができた。

○「奈良県広域就労準備支援事業」 ワークチャレンジ in ぷろぼの

令和元年 7月、11月

短期型：夏・冬期コース（5日間）PC入力作業、部品組立作業、共同作業

長期型：通年（2週間～1ヶ月） 適性に合う仕事を選び、継続的に体験

参加費：無料（報酬・交通費の支給はなし）

福祉：移行+A、B型事業所

報告：就労体験の目標と定期的な個別面談、体験終了時には、就労適性やアピールポイントを整理、就職活動へ移行する。

社会人スキルは社協

ならの障害学生を支援する仕組みづくり ～産・福・医・学が連携した、大学生支援ネットワーク～

学業は学内で
生活面は学外
で相談している

平成28年から**学生生活や学業、就職活動などに課題のある学生**を支援する仕組みづくりに取り組む。

障害者差別解消法から、大学は障害学生支援の担当課の設置義務と推奨により地域の福祉資源による支援や訓練内容について定期的な打ち合わせを実施する。

労働系、福祉系、相談系や土業との連携が進すすみ、共同セミナーが開催できるようになる。

参加：

福祉就労支援関係者 発達障害者相談センター 若者サポートステーション
就業・生活支援センター 医療機関ソーシャルワーカー 産業カウンセラー
ファイナンシャル・プランナー、大学など

活動：

毎月第3水曜日に運営会議

年1回、大学で連続講座を開催

夏季に相談及び就労体験を実施

15名～50名の参加

3日間、3名/日程度

連携

奈良県大学連合

障害福祉サービス事業が困難者の支援をする課題

障害福祉事業を精査し、余裕ある受け入れができる準備が必要になる

① 誰がどのような基準で「困難者」を認定するか

② 福祉サービス事業で困難者の受け入れができるか

③ 利用者の同意が得られるか

④ 職員の同意が得られるか

⑤ 就労移行に時間的余裕があるか

⑥ 就労継続A、B型で受け入れ可能か

⑦ 困難者の情報の共有化ができるか

- ① 誰がどのような基準で「困難者」を認定するか
労働系の特開金の対象は、シングルママ・パパ、シニア、障害者であり、どこまでを対象にするか、また自己申告と共に認定基準が必要になる
- ② 福祉サービス事業で困難者の受け入れができるか
福祉サービス提供時間内は、他の業務はできないことになっているので、新たに人員の採用と場所が必要になる
- ③ 利用者の同意が得られるか
別事業であれば問題ないが、障害者と交流する機会があると事前に同意が必要になる。
- ④ 職員の同意が得られるか
別事業の協力でも、時間配分や利用者への配慮など業務が追加になる
- ⑤ 就労移行に時間的余裕があるか
移行で体験者として受け入れる場合でも負荷が多くなるし、実績にならない。
- ⑥ 就労継続A、B型で受け入れ可能か
障害者以外の戦力メリットはあるが、社会人スキルや能力評価が必要になる
- ⑦ 困難者の情報の共有化ができるか
福祉は概ね事前に相談事業所等の協力で利用となるが、サポステ等の情報共有が可能かどうか、また紹介してもサポステやHWの実績にならない。

これからの福祉

福祉の現場は多くの時間が必要になる
IT化により・業務の省力化・能力評価の標準化
に取り組む

時間を生み出し
情報の共有化
を進める

事務の効率化

勤怠、会計、請求の一体化

職員の当事者意識の育成

支援プログラムの精査

AIで支援記録の標準化

専門家集団との連携強化

地域の福祉ネットワークを構築する

奈良県障害者就労支援協議会の構想

就労移行事業所・・・
就労継続A型事業所・・・45か所
就労継続B型事業所

趣旨

奈良県の障害者就労支援事業を健全に推進するために、福祉事業者と行政等で協議会をつくり運用する

目的

- ・奈良県障害福祉計画を遂行する
- ・福祉ネットワークを構築する
- ・福祉人材の採用及び育成を行う
- ・充実した福祉事業に取り組む

対象

奈良県障害者就労支援の事業者と関係機関、民間企業

内容

- ・福祉事業の充実化について
- ・職員の採用及び育成について
- ・福祉会計及びITの運用について
- ・福祉資格の取得について
- ・事業の相談・指導、就職について
- ・優先調達制度の有効活用について

体制

運営例会

事務局

月例会

県・市・HW

情報共有

はたらく応援団

職員交流

福祉事業所

業務連携

あたつく組合

分科会
・移行事業
・A型事業
・B型事業

業務

- ・規約・運用
- ・事業推進
- ・会計作成
- ・会員対応
- ・制度説明

情報共有

- ・HP FB
- ・メルマガ
- ・パンフ
- ・講座

講座・イベント・伴走支援

会費 月額 3,000円(案)